# 366日の昔話 えん むすめ どう わ しゅう 福娘童話集

## うらしまたろう

福娘童話集　ふるのひ昔話より





おなまえ

福娘童話集　豆本シリーズ 6

# 福娘童話集　豆本シリーズ

・ももたろう　・つるのおんがえし　・かぐやひめ　・ナガナガ山　・花咲じいさん　・金太郎　・浦島太郎　・かちかちやま　・ハクのはがあるかぎり　・シンデレラ　・しらゆきひめ　・ヘンゼルとグレーテル　・ねずみのよめいり　・スズランとラッパ　・いしゃのはこの　・ハクバ・ローズ　・ウリハダ・ばあさんの盗賊　・ひとさしゆび　・眠れる森の美女　・北国の太陽　・おやゆびひめ　・おにくいドレいのうそ　・ふるのおんがえし　・シャンプの豆の木　・にんぎょひめ　・おやゆびひめ　・あかずきんちゃん　・ものおじいさん　・ジャンプ　・しらゆきひめ　・はだかの王さま　・ハクのはがあるかぎり　・ヘンゼルとグレーテル　・スズランとラッパ　・ウリハダ・ばあさんの盗賊　・ひとさしゆび　・眠れる森の美女　・北国の太陽

## 福娘の携帯向けサイト

・福娘童話集（四季の日本の昔話）
・366日への旅（誕生日・誕生月）
・ことばの辞典（ことばの解説・辞典など）
・世界60秒めぐり（世界の国々の紹介）

QRコード

http://hukumusume.com

## 1

おなじおなじ、ある村に、こどものやさしい うらしまたろう という 青年が いました。

うらしまさんが うみべを とおりかかると、子どもたちが 大きなカメを つかまえていました。

そばによって 見ておると、子どもたちが みんなで カメを いじめています。

「おやおや、かわいそうに、はなして あやり」

「いやだよ。やっと、つかまえたんだもの」

見ると、カメは なみだを ハラハラと こぼしながら、うらしまさんを 見つめています。

「それじゃ、お金を あげるから、おじさんに カメを ゆずっておくれよ」

「うん、いいよ」

うらしまさんは、子どもたちから カメを うけとると、

「もう、つかまるんじゃ ないよ」

そっと、うみの 中へ にがしてやりました。

## 2

カメは ようこんと、うみへ かえっていきました。

それから 2、3日たって、うらしまさんが うみに 出かけて、さかなを つっていると、

「うらしまさん、うらしまさん」

「おや？　だれが よんでいるのだろう？」

「わたしですよ」

うみの 上に、ヒョコッと カメが あたまを 出して、

「このあいだは、ありがとうございました」

「あの、あのときの カメさんかい」

「はい、おかげで たすかりました。ところで うらしまさんは、りゅうぐうへ いったことが ありますか？」

「りゅうぐう？　さあ？　りゅうぐうって、どこにあるんだい？」

「うみの そこです」

## 3

「えっ、うみのそこへ なんか、いけるのかい？」

「わたしが おつれしましょう。さあ、せなかへ のってください」

カメは うらしまさんを せなかにのせて、うみの中へ ズンズンと もぐっていきました。

まっさおな ひかりの 中で、コンブが ユラユラ。

赤や ピンクの サンゴの 林が、どこまでも つづいています。

「わあ、きれいだな」

うらしまさんが ウットリしていると、やがて、りっぱなゴテンへ つきました。

ゴテンでは、いろいろとりっぱな さかなたちと いっしょに、うつくしい おとひめさまが おじぎをしました。

「ようこそ。うらしまさん。このあいだは、カメを たすけてくだされば ありがとう。おれいに りゅうぐうへ ごあんないします。ゆっくりしていって ください」

うらしまさんは、ごゼンの ひろきく あんないされました。

さかなたちが、つぎから つぎへと、ごちそうを はこんできます。

フンワリと きもちのよい あんがくが ながれて、タイや ヒラメや クラゲたちの、おどりを おどりが つづきます。

もう一日、もう一日と、あっという間に いわれるまま、うらしまさんは、ハッと、おもいだしたように、

うらしまさんは、ハッと、おもいだしたように、

## 4

「もうそろそろ、帰ってもいいかな。やはり、ふるさとが いちばんだ。」

「それでは、お土産を 用意しましょう。」

ゴテンの 人たちは、うらしまさんに、ふたつの 箱を 出しました。

「どちらの 箱を 選んでも、あなたの 自由です。」

「ありがとう。」

「ただし、この箱を 開けるときは、ゴテンの 中へ 入ってはいけません。」

「はい。」

うらしまさんは、ふたつの 箱を 受けとって、ゴテンを 出ました。

ゴテンの 門を 出ると、ふしぎな 風が 吹いて、うらしまさんは、ふるさとの 海へ 出ました。

「ここは、どこだ？」

うらしまさんは、ふるさとの 海を 見まわしました。

ゴテンの 門の 前に、ふたつの 箱を 置いて、ゴテンの 人たちは、ゴテンの 中へ 入っていきました。

「ゴーン、ゴーン」

ふるさとの 海に、ゴテンの 鐘の 音が 鳴りひびいました。

「ゴーン、ゴーン」

ゴテンの 鐘の 音が、うらしまさんの 耳に、ふしぎな 音を 聞かせました。

「ゴーン、ゴーン」

「ゴーン、ゴーン」

「ゴーン、ゴーン」